

僧侶が自殺対策講話

一緒に考えともに歩もう

岩瀬仏教会の檀信徒総代会

岩瀬仏教会檀信徒総代会の講演会は九日、須賀川市諏訪町の千用寺で開かれ、「自殺対策に取り組む僧侶の会」代表の藤沢克己さん(東京都港区、浄土真宗安楽寺副住職)が講話した。

藤沢さんは「自死(自殺)問題と仏教とお坊さん」今、私にできること」と題して話した。国内の自殺者が年間三万人を超える中、僧侶の会が「自死の問い・お坊さんとの往復書簡」と題した手紙相談

に取り組んでいることを紹介した。

自殺防止対策について藤沢さんは「自死に向き合うと言っても答

えはすぐに見付からない。悩みを抱え込んでいる人の気持ちに寄り添い、一緒に歩もうとす

る姿勢が大切とした。その上で「自死遺族の心のケアも忘れてはならない」と続けた。

仏教会加盟六十二寺の関係者約百三十人が聴講。首都圏の僧侶が宗派を超えて団結し、相談者と手紙のやり取りをしている取り組みに耳を傾けた。

自殺対策の取り組みについて話す藤沢さん

